

大草谷津田生きものの里 自然観察会

生き物たちの冬支度

山下美佐子（東金市）

日 時：2018年12月2日（日）10時30分～12時 天気：曇り

参加者：11名（大人7名、子ども4名）

担当指導員：田島正子 山下美佐子

曇りがちの少し肌寒いお天気の中、「生き物たちの冬支度」観察会が実施されました。参加者は常連で参加してくれている2家族。アットホームな観察会となりました。最初に生き物は「冬はどこにいるのか」「どんな工夫をして冬を乗り切るのか」「見られた生き物はこれからどうなるのか」と書いた紙を見せて観察するポイントを示しました。

林縁に入っていき、アオキの芽生えを観察し、普通は春なのに秋に芽生える変わり者のアオキの親木をみんなで探した。参加者の子ども達の年齢は3歳児や1歳児たち。楽しそうに木の枝や赤い実を見つけて森の中を走り回って、ゆっくり一つ一つを観察するのはもう少し大きくなってからのようです。指導員がマンリョウの実を集めた子に「木の実は鳥の大切なご飯だよ」と言うと、手を羽ばたかせ、「鳥はこうやって実を食べるよ」と鳥が食べる真似をして、もう実をとるのをやめました。大草に何度もきている小さな子ども達は、聞いていないようでも自然とふれあいながら自然について学んでいるようです。いかにも触ったら痛そうなトホシテントウ幼虫がヤツデの葉裏に隠れていました。目の不自由なお母さんらみんなでトゲトゲを触って見たら「ぜんぜんいたくなーい」とびっくり。草刈りのした場所で白いシートを広げ、枯葉や枯草のかたまりをふるいました。小さなクモやヤスデ、トビムシなどの虫がたくさん落とされ、蠢いています。刈り取った草は冬の生き物にとって暖かなお布団です。少し離れた場所でカエル池づくりをしていた方が見つけたカヤネズミの赤ちゃん5匹を見せてくれました。これには指導員も参加者もみんな初めてで「可愛い〜!」と、今日大草に来たことで観ることが出来た喜びを感じました。赤ちゃんの巣は元巣があった場所にそっと帰してもらいました。フワフワのスポンジ構造で寒さから卵を守っているオオカマキリの卵のうは「パンみたい」と子ども達。コクサグモの卵のう、コバネイナゴなども観察。これから寒くなって



今日観られた生き物たちはどうなるのだろうか？と参加者に考えてもらいました。

最後に絵本「冬の虫にあいたくて」をみんなで見ました。1ページ目を開くと、男の子が「大草？」とつぶやきました。きっとその子にとってその絵は大草の風景そのものだったのでしょう。絵本を読み終わっても「もう1回」と子ども達にせがまれましたが、時間なので終了としました。